

「コトづくり」でコミュニティの場に

シェアカフェで空き家利活用、リノベーション・ギャラリーデザイン提案

A2201623 藤澤 忍

研究の背景

近年、都市開発が進み、多くの住宅が増加する一方、人口減少や都心への移住により人がいなくなった建物、いわゆる空き家が増加傾向にある。今回利活用する堤製作所の空き家でも、1階は鮎屋だったが現在は使用されていなく、2階は金物を展示してあるが、見る人がいないといった問題がある。

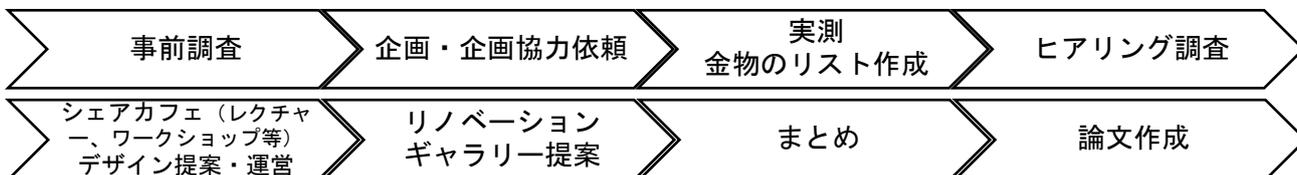
本研究では空き家、特に空き家の利活用に着目し、「マチづくり」ができないか考えた。ただ単に、空き家を利用し「マチづくり」を行うのではなく、コミュニティやイメージ、雰囲気や想いなど、手には取れないが存在するものに焦点を置く「コトづくり」を行いたいと考えた。「コトづくり」として、空き家での活動内容が入れ替わるシェアカフェの運営を構想する。また、空き家のリノベーション、堤製作所の金物、歴史的な金物のギャラリーづくりを行い、人が集まるきっかけづくりを行う。

研究の目的

実際に空き家になっている堤製作所の建物で、シェアカフェとして、地域や場に合わせたレクチャーやワークショップなどを運営していく。また、空き家には堤製作所が集めた鋸や鑿など歴史的な金物があるため、堤製作所の製品とともにギャラリーづくりを行い、展示やカフェとして運営できる場のリノベーションデザイン提案をする。

本研究では空き家の利活用を行うとともに、シェアカフェを行うことによりコミュニティの場になることを目的とする。また、展示を行い、堤製作所を知ってもらうための媒体になることも目的とする。

研究のプロセス



○シェアカフェのコンテンツ

- ・椅子のワークショップ 10月11日
- ・レクチャー1 11月27日
- ・レクチャー2 1月23日

完成作品

○シェアカフェ

シェアカフェを行うために、スペースに利用する椅子、テーブル、また空き家のパーティションの製作を行った。椅子、テーブルのデザインとしては空き家の床が平らではないので、安定させるために三角形にした。パーティションは空き家の劣化を隠すとともに、シェアカフェに利用するために一時的に区切った。

シェアカフェのコンテンツとしてはワークショップ、レクチャーを2回行った。ワークショップはスペースに使う椅子をキットにし、空き家で製作してもらった。レクチャー1は短大の非常勤講師である長沖充先生にクロアチアにあるドゥブロヴニクについてレクチャーを行い、行政や建築士会、一般の方々に聴講頂いた。レクチャー2ではインテリアゼミで行っている青春通りのデザイン提案発表を会津若松のマチづくりということで会津若松市都市計画課景観グループの方々にプレゼンテーションを行った。



シェアカフェ会場



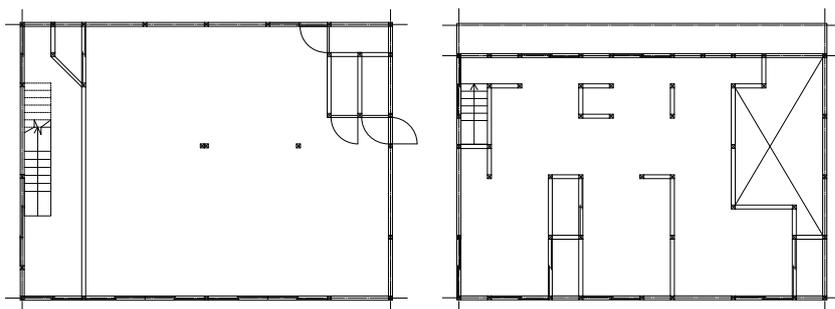
椅子のワークショップ



レクチャー1

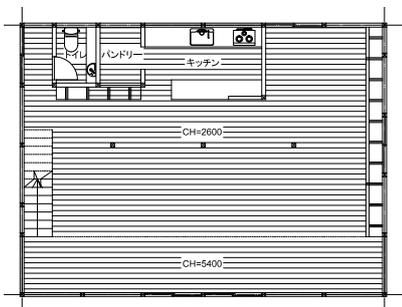
○リノベーション

3回のシェアカフェから、空き家の前に信号機があるため、多くの車が止まり、多くの人は何を行っているのか窺うことがわかった。そこから「見せる」をテーマにし、リノベーション前の窓の位置は変えずに道路に面している窓を大きな開口にし、中が窺えるようにした。室内は1階をシェアカフェで

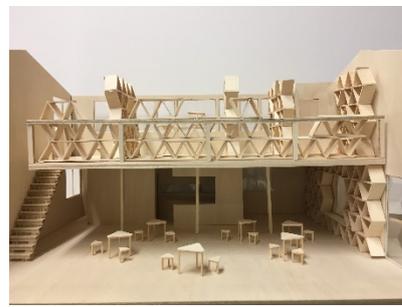
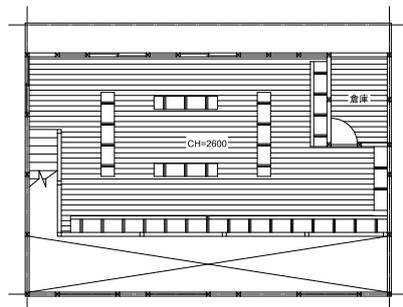


現在の空き家の図面

使う空間、2階をギャラリーとし、元の空間が大きいため2階とつながりを持たせるために吹抜けを設けた。歴史的な金物や堤製作所の製品を展示するとともに、本を収納できるようにデザインを椅子と同じ三角形で棚を設置した。



リノベーション平面図



リノベーション模型

○ギャラリー

空き家の2階には歴史的な金物が多くあるが、展示がされておらず、見る人もいない。そこで堤製作所の製品、空き家の2階にある歴史的な金物を見もらうために展示を行う衝立を製作した。

考察

現在、空き家が増加している一方、多くの企業や行政が空き家の利活用を行っている。中でもシェアカフェは曜日ごとで活動内容が変わるため、地域の人に楽しんでもらえるといったメリットがある。今回、実際に空き家の利活用としてシェアカフェを行ってきたが、ワークショップやレクチャーを行うことによって多くの人が集まり、楽しんでもらったのではないかと感じた。

本研究を通して、使われなくなって空き家になってしまった建物をただリノベーションするのではなく、シェアカフェを行うことによって人が集まるきっかけになったのではないかと感じた。「コトづくり」は人の考えや思いなどから行うため、地域ごとの特徴を活かせるのではないかと感じた。